

割箸検討

弊店で使用している割り箸は、中国産の割箸です。森林伐採等による地球温暖化を少しでも緩和すべく、微力ながらに取り組む所存でおります。

傾向

日本では、年間 250 億膳もの割箸が消費され、その 97%は中国からの輸入です。その伐採方法はいろいろ言われておりますが、皆伐方式(*)がとられ、森は二度と生き返ることができません。今後は日本への輸入も抑制され、価格は高騰し始めました。

それでも経済中心のわが国は、やみくもに対応策をとっているのが現状です。

割箸ひとつで地球温暖化をとめることはできませんが、ほんの少しの姿勢と心掛けが、今後の地球を左右するものと考えます。

対応

先述通り、弊店でできることは限られます。お客様が自然に求めるものを基本的な対応としておりますので、強制的な移行を目的とするものでもありません。

ただ、メッセージのひとつとして、捉えていただければ幸いなことと思います。

対策

現状として、割箸の対応を完全に取りやめることはできませんので、以下の二通りをとりたいと考えます。

- ・ 現在ある中国箸を竹箸に移行します。
 - …竹の成長は 3-4 年と早く、自然サイクルを考えれば、最善の移行物と捉えております。
箸袋にいたっては、時機を見て検討していきます。
- ・ 洗浄機対応塗箸を導入します。
 - …塗箸を使っていただくか否かは、お客様に一存します。
塗箸の箸袋は、洗濯できるオリジナルのもので対応します。

時期

年内 12 月中頃には、現在使用している割箸がなくなると推測できますので、その時点で竹箸を自然的に移行します。

塗箸導入時期は、翌年始からが妥当として取り掛かります。

問題

塗箸と割箸の両方がお客様のもとに置かれることとなりますので、疑問に思われることが想定されます。不審に思われる前に、接客の者が説明の対応ができるようにします。